

● アンケート調査結果

近年、温暖化の影響による大雨等の自然災害の増加が深刻な問題となっており、治山対策が重要となっております。また、林業従事者の数は長期的に減少傾向で推移しており、林野庁では「緑の雇用」事業を実施して新規就業者の確保に努力しております。今回のアンケートでは、資料「もりをまもる」「一目でわかる林業労働」をご覧いただき、ご意見をお聞かせ下さい。

もりをまもる

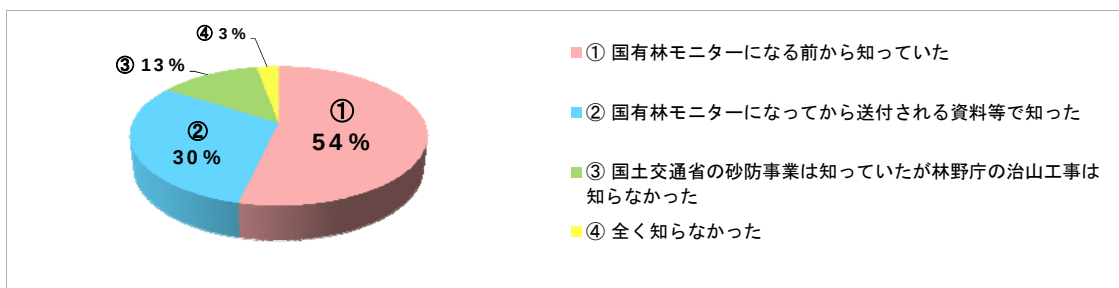
森林は、国土全体の2/3の面積があり、国土の保全、水源の涵養、木材等の生産など、人々の生活に深く関わっております。治山事業は災害発生の原因となる山地を安定させ、住みよい国土をつくることを目的としております。

資料「もりをまもる」をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

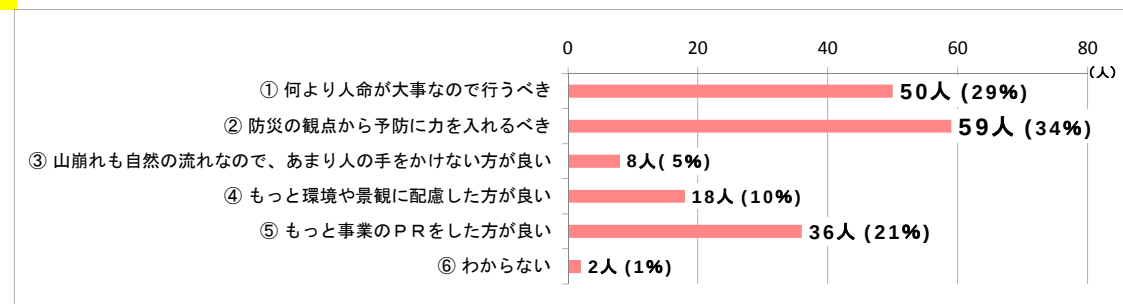
質問1 保安林制度についてご存じでしたか。1つお選び下さい。



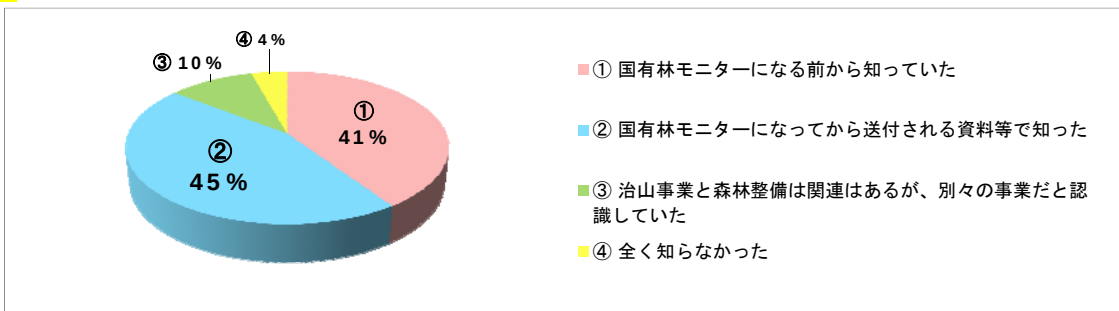
質問2 日本列島は、古くから集中豪雨による山崩れ、地震による斜面崩壊など、自然災害が多発しており、その対策として治山事業が行われていることについては、ご存じでしたか。1つお選び下さい。



質問3 パンフレットを見た後の治山事業のイメージについて3つお選び下さい。

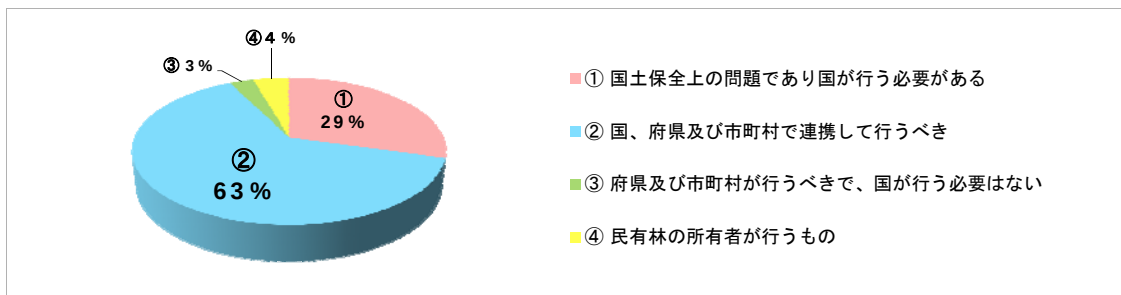


質問4 治山事業の中で森林整備を行うことがあることをご存じでしたか。1つお選び下さい。



質問5

林野庁が、国有林だけではなく、大規模な崩壊地があった場合に民有林に対しても治山事業を行っていることについては、どう思われますか。1つお選び下さい。



質問6

治山事業について、何かご意見がございましたらお聞かせ下さい。

- ・命は大切なもの。でも自然も大事。人にも自然にも優しい治山事業を。
- ・どこが行うことも大切ではあるが、やり過ぎてはいけないと思う。バランスの取り方が大切。人工物は一生守ってくれることはない。トンネル内が崩れるようにメンテナンスや管理維持も大切。
- ・国、県、市町村の連携を現在よりも強化すべき。崩壊が発生する恐れのある場合の予防保全も強化すべし。
- ・予防治山事業は大きな災害が発生しない様、早めに行うべきだと思います。
- ・山地を安定させる事が大事な事と知りました。
- ・非常に大切なことだが、知らない人も多い。情報発信を続けて欲しい。
- ・大きく手を加えることにより、本来の自然の成り行きとは逆になっている場合もあると考えられる。治山事業は、人間が山間や麓で生活することが多くなり必要なものとなっている。そのことで山を治めることが複雑になっていると思う。
- ・この数年間の森林災害を見つめる中で、治山事業には、今後更に重視し、力を入れるべき点が多々存在すると感じた。そして、事業内容をメディア等々を通し、一般的にもっと告知し、世間に浸透させるべきだとも思えた。
- ・山林火災対策に林道沿いの所々に防火水槽などを設置してはいかがででしょうか？
- ・環境に配慮した上で行って欲しい。
- ・日本を住みよい国土とするためのベースとなる事業であると思うので、その重要性のPR及び国・地方公共団体・民間の役割分担をきっちりと定めてより幅広く事業を継続して行うべきだと思います。
- ・国、地方自治体が単独で行うよりも連携が重要と考えます。特に都市周辺では国有林単独面積が小さいので、事業の実施前のPRが不足している様に感じます。高速道路が工事現場の見学会を行っている様に、事後報告と同等に事前・実施中のPRをしては如何でしょうか。
- ・国が管理を徹底し、森林整備を行うことで国民の安心と安全が守られると思います。
- ・ボランティアを募る。
- ・治山事業は、人命、災害の予防という視点からも重要であることは言うまでもありません。しかし当事者以外の一般国民には、その理由は理解しにくいものです。従って、直接広報（記者会見や対話など）・間接広報（サポーターの養成、学校教育）が重要かと思っています。
- ・人命第一にして行ってもらいたい。
- ・役割はわかるが事業後の見た目がコンクリート剥き出しで景観を悪化させていると思う。何とかならないか。
- ・自然災害の恐ろしさと人命、よくわからないけど（治山事業は）必要です。
- ・災害が起きる前に治山事業をして安心。
- ・難しい問題だと思うが、景観や環境にも配慮した治山事業が今後更に発展することに期待したい。
- ・災害が起きてからの事業が多く見られるが、市町村に周囲の山々を見る監視人制度を設け、小さな治山から行って大災害を防ぎたい。
- ・治山事業は、近年の異常気象対策としても重要なことだと思います。たまたま私は、2010年の庄原市川北地区の災害、2014年の広島市八木地区周辺の災害現場を見ました。それ故に、治山事業の重要性を痛切に感じています。
- ・広島では大規模な土砂災害がありました。自治体では災害が起きる前にハザードマップを作り、その地区の住民に知らせること。できれば住民参加でハザードマップを作れば当事者感覚も生まれる。また森林管理のプロ、森林管理局も助言をして欲しい。
- ・狭い国土の中で生活している国として、その中で広い部分を占める山や森林を生かしていくようしっかりとした取組が必要。
- ・非常に重要であると感じた。
- ・持主が分からないままになっている放棄林等が増えております。国、府県、市町村、民有にこだわらず、山全体での治山事業が進められる事が大切だと思います。治山事業の見直しを防災面も含めてできる様になれば、ありがたいです。（パンフレットわかりやすくして良かったです。）
- ・最近山くずれ（土砂流）がとても多いです。治山事業は山腹工事、溪間工事など土木的工事が行われているから災害が少ないと思います。森林をもっと大切にしなければと思います。
- ・自然の力に対して人間は無力である。しかし、自然に力をいただいて生きている。よりよく生きるためには自然を色々と知ることである。自然をよく教えてくれるのは山林である。農業と山林が共に語られて共栄できる。
- ・広大な山林を有する国ですから、国と地方自治体が協力して国土を守っていただきたいと思います。
- ・現状で起こりうる可能性（災害）を所有者に丁寧に説明し、どうしたいのか。計画と結果をハッキリ示した上で、共生共栄の治山事業を進める。
- ・治山事業が行われていることは知らなかったが重要な取り組みだと感じた。
- ・治山事業と森林整備が関連して森を守ることにつながることを知らなかった。しかし自然の流れをあまり人が手を加え過ぎるのもよくないのでは、という思いもある。
- ・完璧を期しても、自然はそれを上回る。防災より、減災という観点から行うことが大切。
- ・国民との関わりについてもっとパンフレットに記載してはどうかと思う。（質問3に対し）3つもない。英語は別パンフレットにした方が良いと思う。文字数が多くなりすぎる。PRすべき対象は殆ど日本語なのだから。
- ・単年度ごとの予算の都合もあると思うが、長期的な視野に基づき事業を実施してほしい。
- ・できるだけ木を植え、山を守る森林に戻すことを希望したい。（森は海の恋人運動や緑のダム機能に関連して）
- ・初めて言葉を知りましたが、良い取組だと思います。
- ・近年、砂防ダムが多く造られていますね。そこにあった植物が全滅になっているのが、悔しいです。

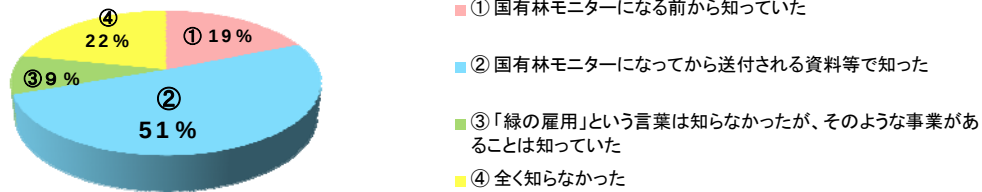
一目でわかる林業労働

森林の有する多面的な機能を発揮するために必要な森林の整備等を担うのは、主に山村において林業に従事する方々です。国勢調査(総務省)によると、林業従事者の数は長期的に減少傾向で推移しており、平成22年には5万12百人となっております。

また、林業の高齢化率(65歳以上の割合)は、平成22年は21%で、全産業平均の10%に比べ高い水準にあります。一方で、若年者率(35歳未満の割合)をみると、全産業が減少傾向にあるのに対し、林業では平成2年以降増加傾向で推移し、平成22年には18%となっているなど、労働力の高齢化に歯止めがかかりつつあります。

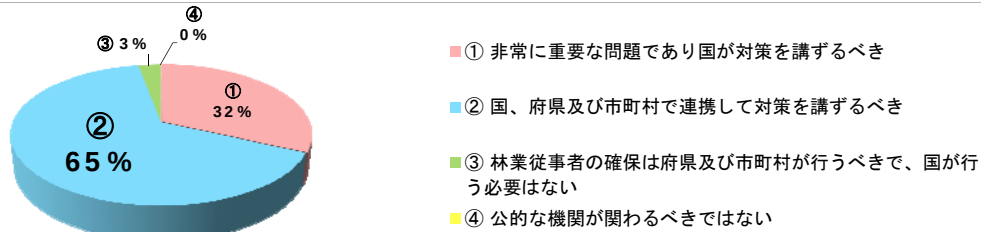
質問7

新規就業者数は、「緑の雇用」事業を実施する以前は年間平均約2千人であったものが、事業実施以降には約3千3百人まで増加しています。この「緑の雇用」事業についてはご存じですか。1つお選び下さい。



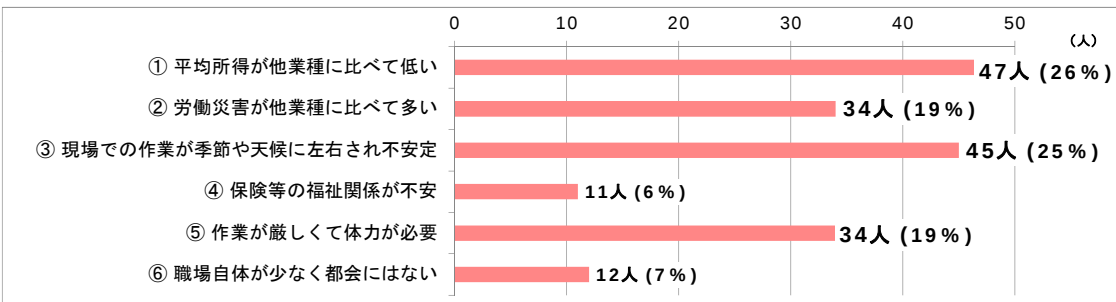
質問8

森林の整備等を担う、林業従事者への対策についてお伺いいたします。1つお選び下さい。



質問9

職業としての林業について、どのような問題があるとお考えですか。3つお選び下さい。

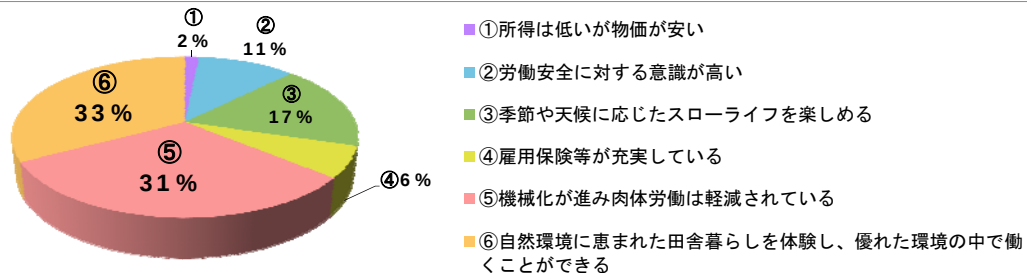


～その他の意見～

- ・雇用組織そのものの信頼性、カッコ良さ等が問われるのではないだろうか？
- ・永住しての作業は子供の教育などの面で不安がある。長期の出張として考えられないか。
- ・林業は高給で能力があれば終身安定である施策をする。本当の国づくりを考えた政治それは根本の農林業を20年位の将来で考える。その場しのぎの政治になっている。
- ・日本において仕事としての位置づけのイメージが低い。

質問10

林業従事者を増加させるためには、一般の方へのPRが重要と考えています。セールスポイントとして最も良いキーワードと考えられるものを1つお選び下さい。



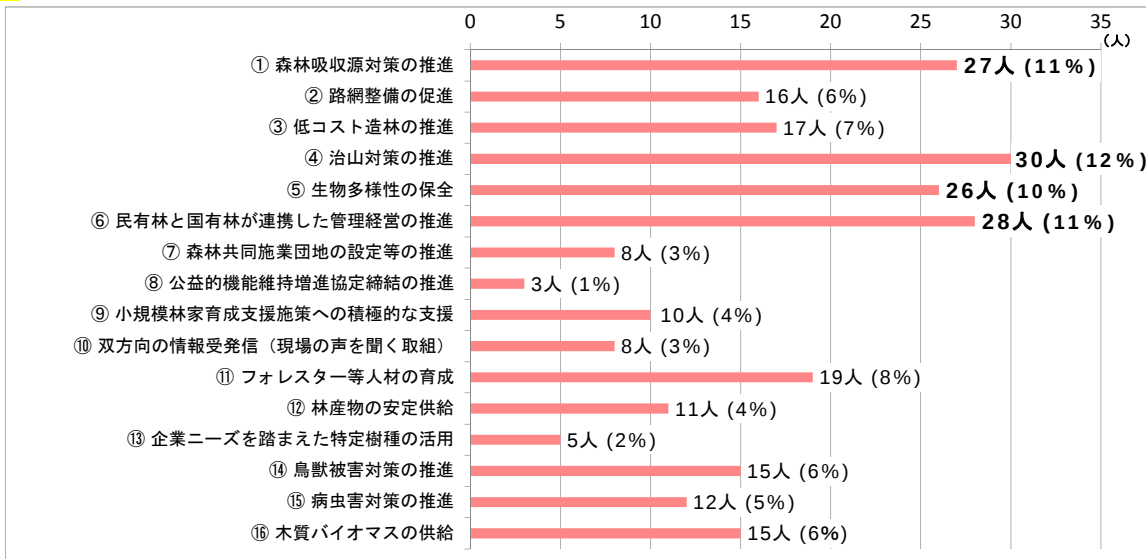
質問11 林業従事者を増加させるためには、具体的にはどのようにすれば良いと思われますか。

- ・家族の理解も必要では。又、若い人たち(子供たち)が早くから自然環境に恵まれた田舎暮らしをすることで林業従事をする大人そして子供たちの夢も増加するのではと思います。
- ・機械化がどのくらい進んでいることをあまり知る人が少ないので、もっと沢山の人の知ってもらい、農業定住と同じく家が安く借りられるとか、安定した収入とか仕事面以外でも安心してもらえるようにしなければならないと思う。あまり沢山、雇い入れても良くならないと農業の方も言っていました。
- ・広報活動(PR)を活性化する。また、林業の良さと給料アップを段階的に考える。
- ・1、最新の機械化状況、作業高度化状況を広くPRする。2、大規模なキャンペーンを繰り返し実施すべき。(数年前のブームに陰りがみられる。今、本腰を入れるべき。)3、林業の重要性を学童教育から取り入れるべき。(農業、漁業に比べて現状では少ない。)
- ・1、所得を上げる。2、北陸地方について(福井県)冬場の仕事がなかなか確保出来ない。
- ・所得が低く作業が厳しく危険というイメージを払拭させるアピールが必要。林業に使われている大型機械を動かすカッコ良さや木を切る爽快感などを積極的に使ってみてはどうか。
- ・雇用者の住宅環境、給料制、社会保険の整備、若者が安定するには労働条件の整備で林業機械化、労働安全の充実が必要で。3Kでは若い労働者は雇用できないので誇りをもって働ける環境づくりが必要で。
- ・受け入れる側に生活空間、都市機能、IT発展など様々な労働環境を提案できるものが必要で。
- ・「ミニ田舎暮らし」1週間程度の企画も考えて、実現できたら良い。(地勢や気候により実現は難しいが、考えるきっかけ作りが欲しいと思うが)
- ・農山村地域での若い男女の出会いの場をつくる。
- ・どんな生活を送ることになるのかを想像できるようにする
- ・林業関連の仕事を増やす。間伐材を使用するバイオマス発電事業への補助金制度。森林組合と農業協同組合の連携強化。林業関連業務の拡大。林業家には農業との兼業が多いので双方の組合の連携を強化することで、林業家、農家への支援を行う。
- ・都会の若者へのアプローチ(アンケートによる意向調査等)を集中し多くする。
- ・若い人向けに就職イベントや就活コーナー・ブースなどに積極的に出展するべきです。
- ・都会からの移住者に門戸を開く。
- ・若い人に聞きました。以下のとおり意見が出ました。
①、林業は大変(しんどそう) ②、林業って具体的に何をやるの? ③、②をして何になるの?(成果・結果は? 植林して何年で木が育つか) ④、林業に従事して生活していけるの?(木を切っていくらで売れるの?) ①～④の答えを若者に伝えてあげないと入ってこないと思います。学校教育で①～③を、④は高校・大学の就活にPRし周知を図る。
- ・PR活動を、TV、パソコンのホームページ等で試みてはどうでしょう。
- ・自然、住みやすい町づくりを行えば良いと思います。
- ・日本中に林業に興味のある学生、若者は何人もいます。しかし彼らは就業セミナーで話を聞くことがあっても、現場を現在の身分のうちに知ることができる機会は非常に限られており、林業とのマッチングの機会がないことが問題だと考えています。そのために広く告知し、「やる気のある、未来志向の」林業系事業者への実践型インターンシップの実施が必要です。(実際に私は主催しています。)ただ広告にはお金がかけてはいませんが、生活していくには、どうすれば良いか。便利な生活をしているので、働くことに抵抗ができてしまっている。安心と安全に働けるように訓練する必要がある。
- ・森林資源を活用した新しいプランの設定。林業従事者の生活圏の設定とか。
- ・危険度が高い割に賃金が安い。安心して働ける安全対策と賃金アップ、雇用保険で将来も安心して働ける職場であることのPRが必要だと思います。
- ・林業で生計が成り立てるようになることが第一。
- ・自然条件によって、就労時間が左右されるため、就業日数や給料制度に影響が出る。現在の林業とともに自然条件に左右されにくい林業につながる経営の多角化(六次産業化)を進め、年間所得のUPと就業時間の増加を計る。
- ・山や樹を自分が1つ持ったような気分になせ、そこを見たり、行ったりすることが楽しくなるような場所にする。(責任をもたず場所づくり)
- ・質問10に比べると質問9の方が切実な問題であると思います。所得を上げないとやる気はおきないと思います。
- ・2014年に見た「ウッジョブ」は田舎暮らしの文化、楽しさ、そして林業を、若い人に啓蒙できた映画と思いました。2作目として、機械化されている場面が多用されたような、いわゆる、メカニカルでカッコいい場面のある映画を作って欲しいと思います。
- ・木材価格の安定が必要、高収入になれば自然と従事者は増える。「安ければ良い」の時代は終わった。「良いものは高い」の風潮ができれば。
- ・職場体験や中高生の修学旅行などで体験するチャンスを作って欲しい。
- ・一般人にとって、林業は、ほど遠い存在になっているように思う。山が緑に見えると荒れているということも感じない。私は林業・森林について学ぶ前はそうでした。とても基本的なことですが、教科書で林業を学ばなかった世代が多いので、まずは森林内での体験活動、自然とのふれあい活動の指導者(森林インストラクター等)を上手に活用して一般人を巻き込んでいく必要があるのではないかと思います。
- ・戦後生まれの60代後半の人々に魅力ある働き方を勧奨する。
- ・「国敗れて山河あり」戦後70年、敗戦時農林業があったので今があると思っている。原爆で疎開した町に、もやい山があり、枝木や落ち葉を取りに行き燃料になり生活ができた。無くなった時、山が生きる力を与えてくれる。強く生きる力は山の恵みである。この思いを具現させる為には山林学校を国が設置することである。この学校を卒業すると国を守り安定した生活ができることを周知させることである。
- ・非常に難しい問題だと思われます。でも、少しでも早い解決方法は第一に所得を増やすことだと思います。そして空気や水がおいしくてスローライフの送れる魅力ある山の生活をもっともっとPRすべきだと考えます。
- ・正直、質問10のキーワードはセールスポイントとしてかなり弱いと思う。大きく3つ。
 - ・林業への権威付け(自然を守る森の専門家など国を挙げてPR。補助金)
 - ・労働条件、環境の整備(所得が低い、福利厚生などの根本的な改善。回すお金は一部の産業や医療ではなく。)
 - ・育成環境の整備(学べる大学や専門学校の増加、通信教育、指導員の増加)
- ・前提として国内林業が成長産業となる必要がある。具体的施策としては、CLT、セルロースナノファイバー、バイオリファイナリーなどの新技術への支援により、木材需要の増加を目指す。また、林道整備や高性能林業機械の整備等により、国内材の価格競争力の向上も必要。
- ・自然環境、公益的機能を維持増進するため、森林の重要性に併せ、収入や労働環境の状況(将来を含めた)の広報を推進する。(例、やりがいのある仕事で生活もできること等。)
- ・若い家族向けに、家族で居住した人に手厚い手当があるようにした方が良いと思う。独身者には寮があるとか。
- ・森林事業に関し、未来に向けての対策や環境の設定が必要と考えます。又、人材育成もです。コンソーシアムの結成など。全国で共有できる情報発信も必要と思います。「共生・循環・再生」を三大柱に考えてみるのは、どうでしょう。
- ・フォーラムを開き、賃金、高性能林業機械の取扱いを習得させて、説明して、安定した職業であることを説明。デスク部門では得られない、自然の営みがわかり、興味のある人は、面白いのでは！大自然の中で生きている！！
- ・木材需要を増やす。林業のイメージアップ。教科書にかっこいいフォレストを載せる。(質問10に対して)
「所得は低いが物価が安い」←「低い」と言い切るのもどうかと思う。
「季節や天候に応じたスローライフを楽しむ」←これはうそになる。この言葉は使わない方が良いと思う。「健康的」とかの方がよい。
「自然環境に~優れた環境の中で働くことができる」←「優れた環境」の意味がわからない。
実際に働いている人に聞いた方がよい。実際に働いている人が不快に思うような言葉は使わない方が良いと思う。「未来へつなぐ森づくり」とかスケールの大きいロマンを感じさせるものがよい。
- ・安心して林業に従事することが出来る環境、例えば雇用保険の充実、労災保険の適用条件の緩和、季節や天候に左右されない労働条件(屋内での木材製品の加工等)を整備していくことが重要だと思います。
- ・自然環境をアピールして、物価が安い事をPRして住みやすい事、仕事も安定する事が大事だと思います。
- ・林業従事者としての体験業務の参加募集を行い、一定周期の試験的体験を希望者に受けてもらい、その中で魅力を感じ、続けていく意志を確認した上で、林業従事者の後継者を抜擢するシステムを構築する。何事も百聞は一見に如かずであり、実際に従事してみて、向き不向きを識別してみる事で、従事者を発掘するのが妥当だと考える。
- ・安全な職業である事のPR。又、所得が安定している事。
- ・60才以上の高齢者が増加するにあたり、希望する人が中山間部以外にもあると思われます。現に私の近くに〇〇〇を退職後、森林組合に再就職し、森林に興味を持った友人もいます。しいたけ栽培も教わりました。広報以外のPRも必要では…。

近畿中国森林管理局の取組みと情報発信について

森林管理局では様々な取組みを行っており、積極的な情報発信を心がけているところです。今後の参考として、ご意見をお願いいたします。

質問12 今年10月に送付いたしました「平成27年度重点取組事項の進捗状況について」の掲載項目の中で、もっと積極的に推進する必要があると思われる取組についてお選び下さい。複数回答でも結構です。



質問13 質問12で選んだ理由やご意見についてお聞かせ下さい。

- ・生物多様性の保全には、もっと力を入れて欲しいと思います。
- ・今年は山に木の実があってもサル、イノシシの出没が多いと感じる。柿も人が世話をしている美味しいものは食べるが世話をしていないものは食べないというぐらい口が肥えている。熊はいないと言われてきたが今年は2回も出没し、生態系が変わってきたのかな？と思う。林業の機械化に対応できる働き盛りの人口と機械化が進んだことをもっと多くの人に知ってもらい、地域ごとに団地を作って協力しあうことが大切。
- ・生物多様性の保全：温暖化により、森林にすむ生物の生態も変わりつつあります。人間と共存する計画が必要だと思います。私の住む県では鹿、イノシシ、アライグマ等街中まで出てきます。その原因は森の中に食べ物が減ったことだと思います。国有林といえども、生物の餌になる木々をデザインされた植樹が必要だと思います。また外来種の植物について、日本由来の植物種を守る計画があるのか？もっと推進して欲しい政策です。
- ・民有林の管理が非常に遅れています。国有林と連携した経営体制を推進した方が良いと思われます。
- ・どの項目も積極的に進めて欲しい事ではあるが、今後の林業を考えると、民有林と国有林の垣根を払っての連携がますます必要にならざるを得ないと思う。
- ・イノシシやシカなどの野生動物が民家の近くまで降りてきている。対策としてどのような取り組みがあるのか。
- ・長期間の森林育成整備が必要です。国は災害が発生する前に予防の森林づくりを積極的に行うべきです。現在は災害が発生してから治山等の工事が多く、災害発生後であれば災害復旧工事費も高くなり、尊い人命も守れなくなります。民間、県、市町村とも普段から情報交換を行い、もっと積極的に取り組みをお願いします。
- ・山崩れなどの災害は、人間の生活に甚大な被害を与えることがある。それを事前に防ぐことは、たいへん重要である。
- ・害虫が多く、本来居るはずの生物が減少し、生態系に乱れが生じていると思うので。
- ・路網整備ができ人の活動範囲が広がり、人材が育つ。
- ・環境との一体化が必要。
- ・路網の整備は林業の大規模化と合わせて、観光等の他の産業での利用も見込めて、地域産業振興に役立つと考えます。
- ・日本の財政赤字を考慮すべき。
- ・沢山、課題：手法があらうかと思いますが、私は以下の3点で考えました。1、人材の育成 2、マクロでわかりやすい推進策(地球環境を守る) 3、具体的な事例づくりが必要だと思います(低コストで造林の推進)
- ・病害虫に強い植林によって将来的に木材が安定して供給できる。鳥獣被害は共存しながらも、やはり大切な森林を守る対策を考えていく。安心して住める治山対策。
- ・「森の働き」「森林の公益的機能」や林業を取り巻く現状等について、広く一般市民の理解につながる広報が必要だと思います。
- ・中山間地域で暮らす人達は、自然豊かな森林に囲まれており、この森林が今はお荷物になると言われています。森林があることが無くてはならない資産として蘇るようにならなければ暮らしていけなくなります。都市と中山間地域が一体となった森づくりが大切と考えます。
- ・日本の林業を今後とも安定的に発展させるには従来の森林吸収源対策や低コスト造林、治山対策とともに、これらの先にある林業を基本とした林業につながる事業(例えば林産物、木質バイオマスなど)を積極的に推進することが必要であると考えます。
- ・民間人と行政に関わっている人が、お互いにわかりあえて管理経営を進めて欲しい。上から目線で〇〇表彰ばかりやらず、実質的な褒め方があると思う。バイオマスをやっている所は山が近く、木と職場を生活に取り込んでいるのを見るとうれしくなる。そこでは朝市をやり風呂を沸かし、人々の憩いの場所が出来ている。
- ・生物多様性に関しては、国民の認識度が一番低いのではないかと思います。実際に山林に入る人は少なく、私も一部の学者さんの領域でしかないように思っていますが、たいへん重要な項目だと思います。
- ・山はつながっている。一か所だけの対処では山全体を守れない。
- ・自然破壊の災害を見るにつけ、「治山」の必要性を思う。国と民間が連携することにより、一層の向上が図られる。
- ・多くの問題点はあると思うが自分なりの優先順位です。
- ・治山対策については、昨今の災害増加により関心の高いと思うから。また現場の声を聞いて事業にあたることも非常に重要であることから。
- ・現在、所有の雑木林の手入れを始めており、どうすればもっと能率的にできるのか。手入れた材を上手に活用する方法はないだろうか。境界の問題、竹林の拡大等、課題が山積みです。自分たちの生活にも反映できたらという気持ちがあり、施業関係に関心があつたから。
- ・「路網整備」は木材の運搬に大切であり造林の推進は治山対策に役立つと思います。
- ・保水力の豊かな山林こそ自然環境が安定し全ての生物が恵みを受取できる里山が荒れている人の手が入らないからである。農地はあれこれと保護されるが里山ともに考える施策が良いと思う。農業と林業とを分けてのニュースになるが農林業のニュースにして、いつも林業が 農業と同じようニュースになるべきである。農業は票が多い、林業は票が少ない、議員さんは農の方だけ顔を向ける。将来のビジョンを語る議員さんが少ないのが残念。
- ・すべてを選びたい気持ちです。1～16まで何一つ不必要なものはありません。少人数で頑張っておられる皆様にエールを送りたいと思います。
- ・生物多様性は新しい宅地開発や商業施設の開発で破壊されているので、深刻に事態を考えるべきであると感じた。
- ・人材を集め、育成していくことが何事も重要。その仕組みを作らなければならない。有限の化石エネルギーより未来に向けて希望が持てる。
- ・うちの田舎でも、昆虫を中心に見られなくなった生物が多い。これをなんとかしたい。人材の育成は、どんなことでも大切。バイオマス利用の推進は、里山の維持にもつながると思う。
- ・小規模林家が多い為、人材育成はどの業界でも重要だと思うが、木材産業とも連携してやるべきだと思う。
- ・路網の整備は治山や林業の低コスト化など種々の対策を進めるうえでの基礎として必要と考える。

- ・先日、宮島に行きました。「宮島の植物と自然」にも書かれている「宮島はシカなどの大型ほ乳類と森林が長い年月共栄しその状態が今も残っている貴重な自然環境である」ことを学び、自然環境維持増進するための森林整備を行い(天然林への移行)、人工林は必要最小限にしてゆく方向性が正しいのではと考えるようになりました。しかし当面は人工林の整備(間伐対策等)、鳥獣害対策(対策に必要な森林整備ができるまで)等は必要だと思います。
- ・連携して情報を共有しないと管理できないと思う。
- ・荒れてゆく森林を支えるのは⑪だと思います。人材の育成が大事。安全供給で、外国産より日本産の木材を。
- ・小規模林家が多い為、人材育成はどの業界でも重要だと思うが、木材産業とも連携してやるべきだと思う。
- ・森の動物(クマ、イノシシ、サル)などが里に下りて来て問題になることが毎年のようにあるから。
- ・②、路網整備は移動に大事な事と思う。⑪、人材育成の為大事な事と思います。⑫、バイオマスをエネルギーに変換する事は省エネになりますし、コストを下げて早く個人に発売して(ストープ等)ほしいです。
- ・国と民間の連携による管理経営、その結果として達成される低コスト造林が、将来的には治山対策の推進と林産物の安定供給へと結びつき、その他の重点取組事項にも良い影響を与えていくものと思います。

質問14 今後、森林や林業分野で知りたいこと、興味があることを教えて下さい。

- ・自分たちの県の活動報告、イベント情報。
- ・林野庁が近未来の国有林管理をどのように計画しているのか？温暖化と共に森林植樹の木種をどのように選定して、生物との共存を考えているのか？アクションプランまで教えて欲しい。
- ・林業関連の産・学・官の連携取組状況を知りたい(農業や漁業の分野に比べて情報が少なく、十分な取組が、なされていないように感じる)。機械化の状況(現状と研究開発)について国内外の最新情報を知りたい。林業の将来構想、理想の形に興味があり知りたい。
- ・個人所有林の今後の森林整備(管理)の放置化や無関心等、山離れが進んでいます。そこで民有林との連携が重要だと思います。
- ・山に植えられる木が、どこでどのように育っているのか、山で育った木がどのように切られ、運ばれ、加工され使われていくのか実際の現場を見てみたい。
- ・木が大きくなるには、50年～100年くらいかかると思っていますが、その間給料は…とか。又、木を伐採などに、そして使う材料にするためお金がかかると思います。その間の経費を考えと働く人がいるのかな…と思っています。
- ・林野庁は機関誌を通して森林のことを国民に伝えようとしていますが、他にどんな業務をしているのか知りたい。
- ・1、何故、働く人が集まらないのか。 2、私達(市民一般)の者達が、(取り組めるもの)少しでも森林のために出来る事。 3、災害が起こる毎に、森林や河川の保全が(マスコミ等で)言われるが、日々出来る、取組等はあるのでしょうか。
- ・木を炭化した時の樹種による違い
- ・幼児でも森林体験することが出来るのか。
- ・女性就業者の年齢別人数
- ・林業の実態について
- ・林業への新規就業者や継承者の定着率。新規的林業関係事業。
- ・梅紋輪病の対策をお願いします。
- ・都会から引越してやっていけるか否か。
- ・林業に従事して、専業で暮らしていけるのか。農業と両立できないと生活していけないのか。就活で提示できるモデルケースはあるのでしょうか。広報ツールって何かあるのでしょうか(イベントetc)
- ・「森のようちえん」を通じて森を子供たちに、親に知ってもらう活動を行い、みんなで管理された森林を残せないかと考えております。「森林」×「子育て」というコラボの情報をもっと下さい。
- ・シイタケ原木栽培や、森林のアロマで澄んだ空気で健康になりたい。観光や健康対策、自然と共に生きていくこと。ロープの使い方。キャンプ等もしていきたい。自炊でどれくらい生活していけるか知りたい。
- ・国の新たな産業として、復活できる要素は、十分あると思います。多面的に発展させる為、色々と勉強できる新しい仕組があればと考えます。
- ・町内のあちこちで、木が枯れています。将来的には、松茸などの産地である我町から採れなくなります。どうやったら、松茸が今後も採れるようになるか知りたいです。
- ・木質バイオマスやCLT等の国産材の利用状況について
- ・林業で地域おこしを行っている事例。・低コストでのバイオマス発電(1つの集落で家庭用として使えるような)
- ・ある森林が国有林に、あるいは民有林になった歴史上の経緯。
- ・「もりめいと」をやってみて林業とはこんなにも素晴らしいものかと分かってきた。山が崩れ、そこに構造物を作るには周囲をずいぶん荒らされ、元の山肌に戻るには時間がかかる。何か良い方法はないだろうか。
- ・昨年8月の広島市安佐南区で起きた土砂災害が記憶に新しいです。街の被害の様子や山の様子を写真で見るとゾッとします。今までは他人事のように感じていましたが身近で起こると、明日は我が身の気がして日頃から避難先を調べたり非常用具を準備しておく必要があると意識しつつ生活しています。
- ・林野12月号の、マツタケの人工栽培技術の記事は大変興味を覚えました。確かに、昭和35年ころには山を歩くとマツタケを踏みつぶすくらい有りました。現在でも有名な家電メーカーが、昭和の終わりのころ秘密の研究部門でマツタケ栽培の研究をしていると内緒話を聞きましたが、陽の目を見なかったようです。それ以来興味を持っていましたが、この記事を見ると現実味が有り、林業従事者拡大の糸口になれば良いなと思いました。この情報の続きを期待します。そして蛇足ですが、マツタケのよく出る自分だけが知っている秘密の場所を先人は「シロ」と言っていました。私は今までシロとは「城」と思っていました。この記事を見て先人のシロは「白」から転じたのではないかと思い新たにしました。
- ・六次産業化に向けた取組。
- ・「熊対策」に対しての有効対策は？「獣害」とも関わることですが。
- ・林業に限った話ではないが、支援の名目で税金のバラマキではないような取組を行い、それを紹介していただきたい。
- ・山の手入れには、結構費用がかかります。手入れをしたら、それが活用できる仕組みがあれば知りたいです。市町村などのイベントでも、地産地消ではありませんが、地元材などを使ったクラフト等もどんどんやって欲しいと思います。
- ・キノコの数種類は森林で栽培出来る様ですがなかなか食卓に載ることの出来ない高級品松茸(マツタケ)、なんとか人工的(人の手をかりて研究)に出来ないものかと思います。
- ・国産材利用の広がりが、工夫挑戦の現状と将来、伏流水の恩恵の生活風景と森の山
- ・住民税が寄付金のような形で地方に分散されてきているのはとてもいいことだと思います。それに似た形で森林や林業にお金が集まる方法はないものかと、考えています。
- ・環境に配慮すれば消費は増えるかという消費者行動について知りたいです。
- ・森林関係の仕事や林業は100年後の人たちに対して数少ない誇りある仕事だと思う。しかし新規就業者数は増えても定着率は低いと思われる。このあたりが何ともやるせない。
- ・林業における安全対策。
- ・「顔の見える木材」農分野のトレーサビリティ(追跡可能性)のようなものがあると良いと思う。
- ・日本の人口減少、高齢化は森林・林業に影響があるのかどうか。
- ・整備されてない人工林をいかに整備し、天然林へ移行させてゆくのか。いかにして人手のかからない森林経営ができるのか。国木材の需要拡大、利用方法の開発・人材不足を解消できる森林整備の方向性。
- ・シャ乱Qのまことさんが林業の仕事をしていて(テレビの企画で)少し興味が湧きました。若い人を取り込むにはもっとPRLしていかないといいなと思います。
- ・間伐材の利用とバイオマスの供給について
- ・高知県の橋原へセラービー関係で見学に行きました。

・「林野」12月号で熊本県阿蘇地域の取組が紹介されていましたが、このようなブランド化(他製品との差別化)の事例については、林業だけでなく他の産業に従事している者にも参考となりますので、もう少し詳細に記事を掲載して頂ければと思います。

・植樹のこと。個人で出来るのか？

・森林における植物や動物の繁殖率やその種類。又、食料へとつながる事が可能な種目はどの程度存在するかを知りたい。森林を保護する事は防災の面と食料の宝庫の側面とがあり、今後も注視して見守っていくべきものである。更に、新エネルギー資源である木質バイオマスについての研究や今後の新たな活用方法等、発展した情報があるならば是非知りたいと感じています。

・森林所有者が都会に在住し、地元の山が荒れた状態になっている家が多々あります。このような森林は、管理の仕様がなく、野放し状態です。再調査し、各行政間で情報を共有し、横断的視野に立って解決策を練る時期に来ていると思われます。

その他のご意見

・林野その他の資料を読み、いろいろな事を知りました。資料作り大変と思いますが、ご苦勞様です。

・モニター会議等を活用し、実際に林業従事者として任務についておられる方々の林業における様々な体験を通じてのお話が聴講できる場を設けて頂ければ、是非参加したいと感じております。林業の魅力や苦難等を理解し、少しでもその内容を社会に様々な方法で発信していければよいのではと考えております。

・林業労働は、素人の私でも厳しい労働だと思っています。しかし、途絶えてはいけません。就業者の減少も他と比べて労働災害は多いでしょう。天候に左右される事も多く、おまけに所得も低い。もっと林業労働者に光を当ててほしいと思います。

・凍結防止剤が撒かれる季節になって、これを食べるミネラルを取って生き延びられる獣が今年もいるんだと思う。物事はプラスとマイナスでセットになっているのだと。来年も、お山ん画を読みたいです。このシリーズがあれば難い読み物にならずに良いと思う。次世代に繋げないといけないことが沢山あるのに、みんなその事をどれだけ考えているのだろうか。お金やハイテクだけでなく、それらを繋いでいく人間の心の育成の為に、自然は大切なツールであると思う。一番は知ってもらう事。人工と自然の配分をどうするのか、難しいと思う。昔から減ひと再生はあったから、守るばかりでは。きっと循環は人間社会の所で詰まっているのだと思う。

・私は我が県の林業に携わるオビニオン・リーダー的な人たちと意見交換することがあります。国有林について、大野から来た方は、「国有林は荒れ放題、どんな管理をしているのか？だから民営の森林は影響を受ける」私は必ずしも国有林の保全管理は適切でないとの主張を受け入れるわけではないのですが、民営と国有林との連携した管理運営の推進が必要と考えます。一番大事なことは、民営の森林所有者と林野庁の国有林管理者、一般の方(モニター)との意見交換が必要と感じた。その中で最適な森林管理のプランの構築です。意見交換から意見集約をして、政策に反映できるように意見形成を目指すことではないでしょうか？

・現状の課題に対する諸施策も重要であるが、将来の理想の形へのアプローチも必要である。抜本的な改革も含めた構想を打ち立てて欲しい。

・1年間国有林モニターをさせていただき誠にありがとうございました。何も出来ませんでしたが、自分としては大変参考になりました。

・林野その他の資料を読み、いろいろな事を知りました。資料作り大変と思いますが、ご苦勞様です。

・若い人の意識が変わり、緑の雇用も例年より増えているという話を聞いた。木を一本切ることができるようになるまで8年ほどかかるという厳しい現場を少しでも作業しやすくなる新しい技術の開発にも力を注いで欲しい。

・山歩きを楽しむ人たちに森の大切さをアピールしたり、神社の建て替えや城の天守に使われている木のアピールをしたり、観光などと結びつけて林業についての情報発信を考えてみてはどうか。

・モニターになってから、新聞などで林野に関連がある記事があると、良く目を通してます。

・学校の社会見学や出張授業のプログラムはどんなものがあるかを知りたいです。

・お送り頂いている情報誌や資料はカラー印刷で分かりやすいのですが、コストを考えるとその内容(図表や写真)の殆どをカラーにする必要は無いと思います。PRも大切ですが、やはり本業に予算を回すべく、パンフレット等もこんなに節約して、しかも分かりやすく作っています。いった姿勢も必要かと思います。

・2年間国有林モニターをさせて頂き、貴重な資料や経験をさせて頂きましたが、大阪市内在住では国有林との縁が少なく、3年目の申し込みは致しませんでした。近畿中国森林管理局様とは今後も縁を繋いでいければと思っています。

・貴局からの「林野」などの資料やデータを拝見し、改めて林業の重要性や課題を学ぶことが出来ました。

・力仕事と職場までの距離が遠い。しかし、ほっとして腰を下ろして、まわりを見ながら汗をふくと、他では見られない満足感が味わえる。女性の活躍を何とか増やして和やかな職場になったら、若い人も増えると思う。

・身近に感じることがあって、モニターになりました。家を建てるのに必要な木が高いし、どうなっているのか知りたくて。良い勉強の機会が持てました。

・都会の子供たちに修学旅行で来てもらえばどうだろう。林業や農業の大事さが勉強できる。(テーマパークなどは個人で行っているの。)

・本モニターになって知識が広がったと思う。

・林業(農業)、自然、環境など、地に足をつけたスペシャリスト、その大切さを伝える職業(インストラクター、ガイド等)の人々の地位をもっと上げることに力を入れて欲しいです。社会的地位が上がれば、従来者(希望者)も増えるのではないかと思います。国に期待します。よろしく願います。

・「もりをまもる」の印刷は台紙がカーキ色のため見にくいので、もっと明るい色(白色か無地色)が見やすいと思います。

・山持ち村は金持ち村の時があった。林業は安定して豊かな生活ができる施策を国が本気にやらねば若者は集まらない。

・社会保障や経済対策よりも森林対策に予算をあててほしい。

・もっと森を身近に感じられるようになると良い。